

中東・イスラーム研究センター

CMEIS: Center for Middle Eastern and Islamic Studies



学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進し、総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成を目指す

グローバル化が進む今日、パレスチナ問題やシリア内戦など、中東で起こってきた数々の事件は、難民の移動やテロの拡散などのかたちで世界の各地に影響を及ぼしています。反対に、世界各国は依然として中東の石油に依存しており、経済やビジネスにおけるつながりも年々強まっています。日本も例外ではありません。中東との政治的・経済的なパートナーシップの強化が進み、また、世界中から多くのイスラーム教徒が観光客や留学生として訪日しています。

このように、今日の国際政治における中東の重要性、国際社会におけるイスラームの存在感が増すなか、世界的に中東・イスラーム研究への学術的・社会的な注目と期待はいっそうの

高まりを見せています。また、既存のディシプリンにおける事例研究として中東・イスラームが取りあげられることも増えており、政治学、社会学、歴史学、人類学、思想研究などそれぞれの分野において中東やイスラームを理解するための豊かな学知が築かれてきています。

「中東・イスラーム研究センター (Center for Middle Eastern and Islamic Studies、CMEIS [シーメイス])」は、立命館大学の総合私立大学としての強みを最大限に活かし、多様な学問的背景を持ったスタッフの力を結集することで、学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進していくことを目指します。そして、最先端の研究の追求を通して、中東・イスラ

ムに関する総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成に取り組みます。

言うまでもなく、中東とイスラームはイコールではありません。イスラームは、中東で発祥した宗教ですが、今日では世界中に18億人と言われる信徒を持つ世界宗教となっています。イスラームは中東だけではなく、反対に中東はイスラームだけではありません。CMEISの「中東・イスラーム研究」という名称には、中東とイスラームのそれぞれを研究することの強みを活かしながら協働していくことで新たな学知の構築を目指す、という意味が込められています。



研究：大学・研究機関の方へ

CMEISでは、①政治・国際関係、②文化・ジェンダー、③歴史・広域ネットワーク、④社会・経済システムの4つのアプローチ別にユニットを組織し、各領域の個別の研究を推進するとともに、中東・イスラームに関する最重要アジェンダ群に協働して取り組みます。既存のディシプリンの強みを活かしながらも、その有効性と限界性の両方を絶えず検討しながら、あらたな学知のあり方を模索していきます。



教育：学生・院生の皆さんへ

CMEISでは、スタッフによる研究教育活動を通じて、次世代の中東・イスラーム研究を担っていく若手の研究者・専門家の育成を目指しています。学部生・院生は、CMEISの活動を通じて、最先端の中東・イスラーム研究に触れるだけでなく、学部・研究科の違いを超えた知的交流の機会を得ることで、それぞれの関心や研究を深めることができます。学部4年間の学び、研究科での5年間(修士2年、博士3年)の研究、さらには、博士学位取得後のキャリア設計や就職を支援していきます。



主な研究テーマ

- 歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな地域研究の開発
- 危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から
- 危機下パレスチナにおける社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンからのインフォーマルな資源配分
- 中東・イスラーム研究における学際性の拡張を通じた次世代の地域研究の開発
- アジア・イスラームと変容期の政治・経済の動態解明
- ムスリム消費者のハラール認識と食品消費行動
- 中世のイエメンにおける人々の移動性に関する研究
- 日本社会へのイスラームの土着化：モスクの説教に見られる多文化共生観の役割と影響
- 現代イスラーム世界における法学者ネットワークの動態：人権規範をめぐる分断と統合

- アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築
- ヨルダン政治と部族社会：南部の政治・社会・経済に関する現地調査を中心に
- 2020年代のイスラーム経済：マレーシア発ハラール経済のイニシアチブの戦略と展望
- 21世紀イスラーム思想の3つの潮流：近代的普遍をめぐる対立と法典抛の現代的解釈
- 「立命館発・創成的アジア・日本研究」開発
- 新たなイスラーム政治哲学の誕生と展望：民主化後退後のアラブ世界の自由・善・公正
- シリア難民の地中海域ネットワーク戦略：難民ホスト社会ヨルダンから見る共生の可能性
- 交易・交流の場としてのマクラーンと近代
- Journalists of the Empire: Capitalism, Imperialism, and Misinformation
- 米国の対アフガニスタン政策の失敗の要因とアフガニスタンの今後

- ネット時代に復興する詩と語り物：アジア西方イスラーム圏のオーラル文化の現状と展望
- 中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から
- 関係論的転回の歴史記述：世界システム論からシステム間移行のデザイン学へ
- 現代トルコの公正な社会統合・多文化共生に関する研究
- 権威主義体制における社会政策：スィーサー政権下エジプトの保健政策を事例に
- Emotions, Beliefs, and Ritual Engagement: Unravelling Iran's Role in Syria
- ヘレニズム時代の東地中海・中東地域の政治史
- China's Overseas Investments and its Responsibility for Environmental Preservation: Perceptions of a Diverse Range of Actors with a Focus on Egypt



センター長：末近 浩太(国際関係学部 教授)

主な研究拠点：衣笠キャンパス

お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス 中東・イスラーム研究センター事務局 TEL: 075-465-8306 FAX: 075-465-8342

✉: cmeis@st.ritsumeikan.ac.jp <https://www.cmeis-ritsumeikan.net/>